



生活環境経済学科のゼミ
1
鈴木 奈穂美
ゼミナール



生活環境経済学科のゼミ
2
松井 暁
ゼミナール

生活環境経済学科のゼミナール

Department of Economics for Life and Social Environment SEMINAR

「対話」から生活課題の改善策を
自ら導き出せる人となるために

鈴木 奈穂美 教授

経済・社会と生活環境が大きく変化する中、生活課題が多様化し、課題の不確実化・複雑化が強まっています。課題の絶対的な解決策が既に知られていることも多く、現状の生活課題の改善には、当事者の参加を前提に対話を積み重ねることがとても重要です。鈴木ゼミナールでは、様々な生活課題を抱えている当事者やその支援者の声に耳を傾けながら、対話を通じた研究活動を積極的に行っています。学生同士の対話だけではなく、学生と学外の生活者との対話を重ねていくことで、学生が主体的に学ぶ力を身につけられると考えています。課題把握の視点とその改善につながる方法を自ら導き出せる人となるよう、研究活動を積極的に行っています。



共生社会実現の方法を
様々な視点から考えていく

3年 富澤 優那 さん

鈴木ゼミナールでは、共生社会実現をテーマとしたテキストの輪読、そのテーマを題材にしたゲーム形式のワークショップ・プログラムの開発、川崎市中原区で地域共創活動に取り組んでいる方々とのコラボゼミなどを行っています。これらの活動を通して「協調性」を身につけられるだけではなく、しっかりと相手の話に耳を傾ける「傾聴力」や、相手の意見や立場を尊重し一人一人の意見を無駄にしない「柔軟性」、効率的かつスムーズな会議を実現する「ファシリテーター」のスキルも向上します。様々な人と協力し合うグループワークが多いゼミナールであるため、意見を出しやすいような和気あいあいとした雰囲気に取り組んでいます。



現代経済社会の諸問題を
規範的な観点から研究する

2年 韋 浩龍

松井ゼミナールではジェンダーや格差社会、エコロジーのあり方といった現代の経済社会における諸問題について研究しています。主に各グループでスライドやレジュメなどを作成し、「どうあるべきか」という規範的な視点から、学生同士で議論を行っています。また、ゼミナールの魅力を伝えるために参加した「ゼミ宣伝コンテスト」では、サイトや動画を活用した宣伝作品が先生や学生達から高い評判を得ることができ、経済学部の中で最も人数が多いゼミナールになりました。学生の数が多いことで様々な人と接するようになり、自身のコミュニケーション能力や傾聴力、自己表現力を磨くことができる点もこのゼミナールの魅力の一つだと思います。



重要問題の検討を通じてあるべき
経済社会の方向性を探る

松井 暁 教授

松井ゼミナールでは消費税、福祉国家、経済成長のように、その是非をめぐって議論が分かれるような社会の重要なテーマについて、報告・討論をいくつかのグループに分かれて行っています。これらの活動を通じて当該問題への関心を深めるだけではなく、学生が自発的に研究する誘因を高めています。「勉強」ではなく、大学の「研究」では、多様な情報や主張について批判的に理解することが必要です。松井ゼミナールで行っている報告・討論を重点におく方式によって、そうした批判的な研究スタイルを身につけることができます。身近な問題から国際的な問題まで、様々なテーマの議論を通じてあるべき社会の方向性を探っていきます。

